

【参考資料 A】 MRI 版ウェルビーイング指標の全体構造

MRI 版ウェルビーイングの構成9要素(A.~I.)、21 項目(A-1~I-1)、36 指標(A-1-1~I-1-3)は以下のとおり。

【A.生活の自立】	A-1 心身ともに健康的に生活できていること
	A-1-1 適切な運動や食生活を通して、身体的に健康的な生活ができていること
	A-1-2 過度なストレスがなく、精神的に健康的な生活ができていること
	A-2 生活の自立に必要な所得や資産を有していること
	A-3 仕事、学校、家事、睡眠以外に、自分で自由に使える時間が確保されていること
【B.つながり】	B-1 他者や社会とのつながりを通して、自身の存在意義を実感できていること
	B-2 家族や友人、職場の上司・同僚と相互に承認しあっていること
【C.自己実現】	C-1 仕事や学び、趣味などを通じて、なりたい自分の実現に向かって取り組んでいること
	C-2 仕事や社会的活動を通じて、誰かの役に立っているという実感がもてること
【D.将来への希望】	D-1 人生や社会に対して期待があり、自分の将来に希望を持っていること
【E.安全・強靱】	E-1 テロや犯罪の発生が抑えられ、甚大災害から守られていること
	E-1-1 テロや犯罪の発生が抑えられ、安心して生活できること
	E-1-2 地震や津波、集中豪雨などによる自然災害に対して十分な対策が講じられていること
	E-2 経済危機や自然災害などのショック発生時に経済的に困窮しないこと
	E-3 危機に陥った人に対して公的なサポートが行き届いていること
	E-3-1 病気や怪我をしたとき、必要な医療サービスを受けられること
	E-3-2 日常生活が困難になった時、必要な介護・福祉サービスを受けられること
	E-3-3 何らかの理由で働けなくなった場合でも、最低限の生活を維持できること
	E-4 困ったときに頼れる人がいること
	E-4-1 悩みごとがあったとき、相談に乗ってもらえる人がいること
E-4-2 病気や怪我で日常生活が困難になったとき、手助けをしてもらえる人がいること	
【F.多様性・包摂】	F-1 誰もが基本的な生活インフラや情報通信サービスを利用できること
	F-1-1 誰もが基本インフラ(電気・水道・交通・郵便など)を利用できること
	F-1-2 誰もが情報通信機器や情報通信サービスを利用できること
	F-2 日々の生活において不当な制約を受けず自由に選択ができていること
	F-2-1 思想信条や言論、居住、移転などを不当な制約を受けず選択できていること
	F-2-2 仕事の内容や働き方を不当な制約を受けず選択できていること
	F-3 所得、健康状態、教育水準に過度な格差が生じていないこと
F-3-1 所得や資産に過度な格差が生じていないこと	
F-3-2 心身の健康状態に過度な格差が生じていないこと	
F-3-3 教育機会や教育水準に過度な格差が生じていないこと	
【G.次世代への継承】	G-2 地域や国の歴史・文化・芸術が育まれ継承される環境が整備されていること
	G-2-1 地域や国の歴史・文化が尊重され継承されていること
	G-2-2 新しい芸術・文化が生まれ続けていること
	G-3 地域や国の財政が持続可能であること
【H.進歩・挑戦】	H-1 社会に挑戦の土壌があり、失敗へのセーフティネットがあること
	H-1-1 事業や進学、スポーツ等に挑戦する者を応援する土壌があること
	H-1-2 失敗しても再挑戦できるような仕組みが整っていること
	H-2 社会のニーズに合わせて新たな産業が生まれていること
	H-2-1 企業が魅力的な製品やサービスを生み出していること
	H-2-2 将来有望な企業が新たに立ち上がっていること
	H-3 生涯を通じて人が学び、能力が活かされる環境が整備されていること
H-3-1 生涯を通じて、社会ニーズにマッチした知識・技能を学ぶ機会が提供されていること	
H-3-2 どんな人でも、その能力が活かされる環境が整備されていること	
【I.地球環境の保全】	I-1 気候変動対策、資源の有効利用を含め、自然環境が持続可能であること
	I-1-1 地球温暖化・気候変動のための対策が取られていること
	I-1-2 森林、河川、大気などの自然環境が保全されていること
	I-1-3 リサイクルやリユースなど資源の有効利用、廃棄物対策が行われていること

【参考資料 B】生活者 1 万 2 千人アンケートの設問項目

今回のアンケート調査は、MRI 生活者市場予測システム(mif)が保有する 3 万人のパネルのうち、以下の属性分布を持つ 1 万 2 千人のパネルを対象として実施した。

性別	N	%
男性	6,033	50.3%
女性	5,967	49.7%
合計	12,000	100.0%

年代	N	%
20-29	1,630	13.6%
30-39	1,807	15.1%
40-49	2,308	19.2%
50-59	2,216	18.5%
60-69	1,946	16.2%
70-79	2,093	17.4%
対象外	0	0.0%
合計	12,000	100.0%

居住地域	N	%
北海道・東北	1,256	10.5%
関東	4,296	35.8%
中部	2,163	18.0%
近畿	2,025	16.9%
中国・四国	1,013	8.4%
九州沖縄	1,247	10.4%
合計	12,000	100.0%

アンケートにおける設問は以下の5問であり、うち問1については【参考資料 A】に記載した構成要素の A. から D.、問3については同 E. から I. の対象指標ごとに回答を求めている。

問1 (1)あなた自身の生き方において、以下の項目はどの程度重要だと思いますか。

1:重要ではない、2:あまり重要ではない、3:どちらともいえない

4:やや重要である、5:重要である

－ ウェルビーイング構成要素 A. から D. に含まれる指標ごとに回答 －

(2)あなた自身の現在の状況について、以下の項目にはどの程度満足していますか。

1:満足していない、2:あまり満足していない、3:どちらともいえない、

4:やや満足している、5:満足している

－ ウェルビーイング構成要素 A. から D. に含まれる指標ごとに回答 －

問2 あなた自身の現在の状況を総合的に見ると、どの程度満足していますか。

選択肢は問1(2)と同様

問3 (1)あなたが住んでいる地域について、以下の項目はどの程度重要だと思いますか。

選択肢は問1(1)と同様

－ ウェルビーイング構成要素 E. から I. に含まれる指標ごとに回答 －

(2)あなたが住んでいる地域では、以下の項目はどの程度実現されていると考えますか。

1:実現していない、2:あまり実現していない、3:どちらともいえない、

4:ある程度実現している、5:実現している

－ ウェルビーイング構成要素 E. から I. に含まれる指標ごとに回答 －

問4 あなたが住んでいる社会を総合的に見ると、どの程度望ましい姿が実現されていると考えますか。

選択肢は問3(2)と同様

問5 あなた自身の状況と社会の状況を総合的に見ると、全体としてどの程度満足していますか。

選択肢は問1(2)と同様

ウェルビーイング構成要素ごとに回答を求める問1および問3については、回答傾向にバイアスが生じることを避けるため、A~Dの要素が出てくる順、および同一要素内での項目が出てくる順をランダム化した。

【参考資料 C】 順序ロジットモデルに基づくウェルビーイング関数の推計

生活者1万2千人アンケート調査結果の個票を用い、主観的満足度を被説明変数、世帯収入や各種属性、MRI版ウェルビーイング各指標の満足度/実現度を説明変数とするウェルビーイング関数(主観的満足度関数)を推計した。推計手法には順序ロジットモデルを使用している。

ウェルビーイング関数の構造は以下のとおり:

$$SWB = f(x, y, z)$$

ここで、SWB:アンケート調査における「問5(総合的な満足度)」

x:主観的満足度に影響を及ぼす要因

(人間・社会・地球の要素に含まれる36指標の満足度/実現度)

y:世帯収入

z:主観的満足度に影響を及ぼすその他の属性要素

具体的な推計式は以下のとおりとなる。

$$\begin{aligned} \text{logit}(P(SWB_i \leq k)) &= \delta_{ij} \sum_j \text{mif_subfactor}_j \\ &\quad \text{(主観的満足度指標)} \quad \text{(主観的満足度に影響を及ぼす要因)} \\ &+ \gamma_1 \text{Income}_i \\ &\quad \text{(世帯所得)} \\ &+ \gamma_2 \text{Age}_i + \gamma_3 (\text{Age}_i)^2 + \gamma_8 \text{Children}_i + \gamma_5 \text{Married}_i + \gamma_6 \text{Loan}_i + \gamma_7 \text{Savings}_i \\ &\quad \text{(年齢)} \quad \text{(年齢の二乗)} \quad \text{(子供の数)} \quad \text{(結婚ダミー:既婚=1)} \quad \text{(ローン残高)} \quad \text{(貯蓄残高)} \\ &+ \varepsilon_i, k=1, 2, 3, 4, 5 \\ &\quad \text{(誤差項)} \end{aligned}$$

なお、説明変数として投入している主観的満足度に影響を及ぼす要因は、【参考資料 B】に示すとおりいずれも5段階の回答となっている。今回のウェルビーイング関数では、回答結果を1~5の数値変数として投入しており、段階が変化することによる影響が等しいと仮定している。各段階の変化がウェルビーイングに及ぼす影響は厳密には等しくないと考えられるが、今次推計では等分と仮定することが推計結果を著しくゆがめる可能性は少なく、一定の妥当性があるものと判断している。